

新 町 遺 跡

— 福岡県糸島郡志摩町所在遺跡の調査 —

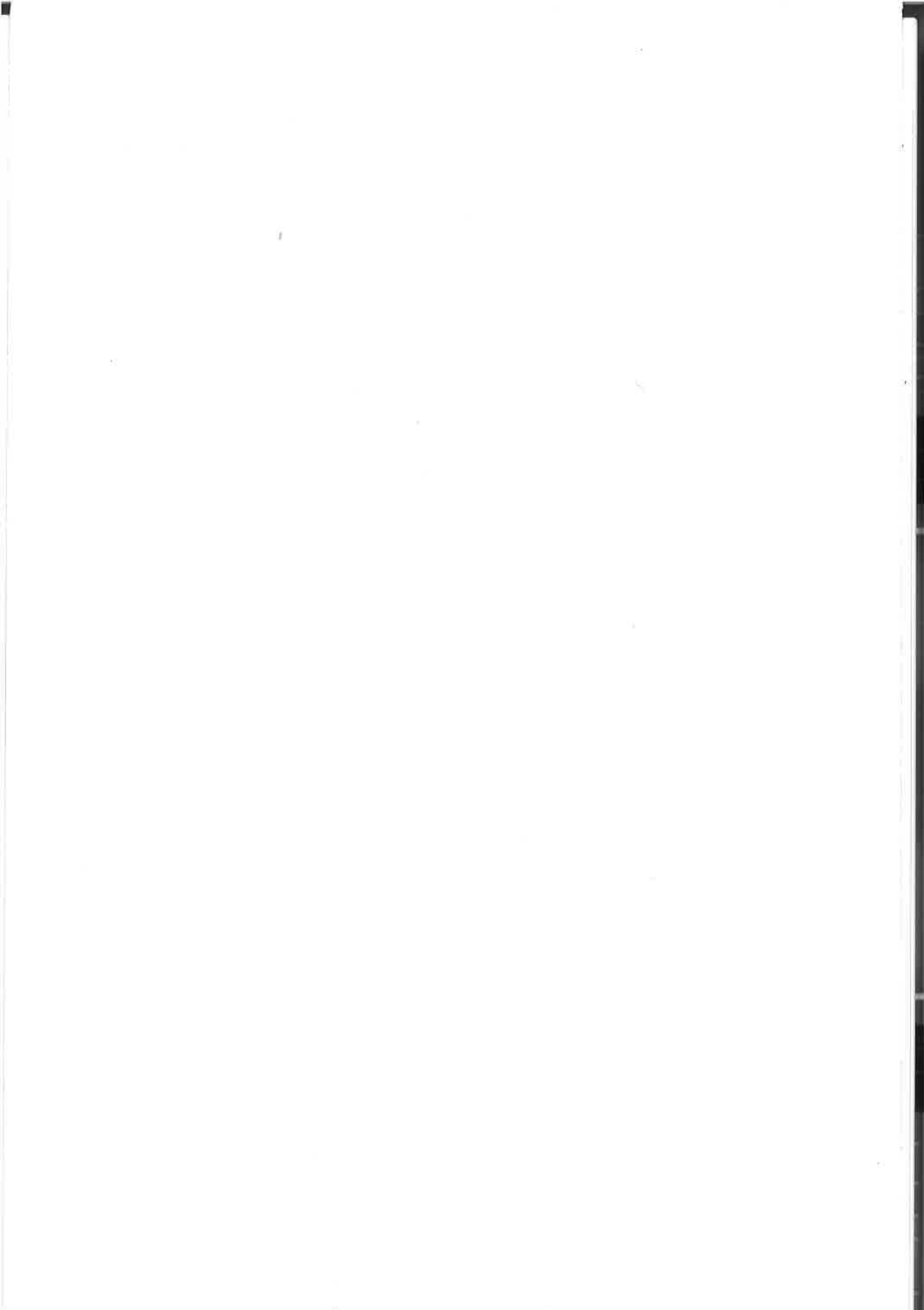
IV

志摩町文化財調査報告書

第 14 集

1 9 9 1

志摩町教育委員会



新 町 遺 跡

—福岡県糸島郡志摩町所在遺跡の調査—

Ⅳ

志摩町文化財調査報告書

第 14 集



1 9 9 1

志摩町教育委員会

卷頭写真 IV-02-1 号墓 人骨出土状態

序

新町遺跡は昭和61年に弥生時代早期の支石墓をはじめ多数の墳墓が発見され一躍脚光をあびることとなりました。それ以後、弥生時代中期・古墳時代前期の墓域も確認され、この一帯が当時から栄えていたことがわかりました。

稲作開始時期の埋葬形態がはっきりとわかるこの貴重な遺跡がどこまでひろがっているのかを把握するために今回の調査を行ったところ、支石墓等が発見された地点より北東に約 200m 離れた場所にも遺跡が存在することが確認されました。

しかもトレンチのひとつより縄文時代の遺構が検出され、ここ新町遺跡の持つ内容も大幅に広がることとなりました。

これより先、この一帯の調査が進み、歴史的財産である新町遺跡の全貌が私たちの目の前に現われることを願ってやみません。

また、当地が文化財の研究・啓発の場となるよう今後も努力していく次第であります。

最後に調査に関して指導・助言をいただいた諸先生方、寒風ふくなか発掘に従事していただいた地元作業員の方々をふくめ、多方面にわたりご協力をいただいたことを簡単ですがこの場を借りて感謝申し上げ、序とかえさせていただきます。

平成3年3月31日

志 摩 町 教 育 委 員 会

教育長 牧 園 照 和

例 言

1. この報告書は志摩町教育委員会が国庫補助を受けて実施した同町所在新町遺跡の重要遺跡確認調査の記録である。
2. 出土人骨については九州大学医学部解剖学教室に鑑定を依頼し、中橋孝博先生にご協力いただいた。
3. 出土人骨検出については福岡教育事務所小池史哲氏に指導・助言をいただいた。
4. 遺構の実測は河村裕一郎が行った。
5. 本文内の北は磁北である。
6. 遺構の写真撮影は河村が行い、遺跡の空中写真は「空中写真企画」に委託した。
7. 本書の執筆ならびに編集は河村が行った。

本 文 目 次

I. はじめに.....	1
1. 調査の経過.....	1
2. 遺跡の位置と環境.....	2
II. 調査の内容.....	4
1. はじめに.....	4
2. IV-03トレンチの調査	6
3. IV-01トレンチの調査	8
4. IV-02トレンチの調査	10
III. おわりに.....	13

I. は じ め に

1. 調査の経過

新町遺跡は昭和61年に第1次調査を行い、弥生時代早期の支石墓群を含む57基の弥生早・前期の墓地を検出している。その範囲の確認を主眼に置いた第2次調査は翌昭和62年に行われ新町字ギ丁原一帯に弥生中期・古墳前期の墓域が広がっていることを把握した。

また、宅地造成に伴う平成元年の第3次調査では、第1次調査地点の南側にまとまった古墳前期の箱式石棺墓群を検出している。

また、新町地区の東側に約200mの地点には昭和57年調査実施の御床松原遺跡が位置しており、新町遺跡の墓域と御床松原遺跡の住居跡群の関連性がもたらがってきた。

これらの発掘調査の成果をもとに、新町遺跡の墓域に対応する生活跡の検出と御床松原遺跡の西限を確認する必要が生じ、1990年（平成2年）に志摩町が事業主体となり国庫補助を受けて調査を行った。

調査期間と調査組織は下記のとおりである。

調 査 期 間 1990年12月5日～1991年3月27日

調 査 組 織

調 査 主 体 志摩町教育委員会

総 括 志摩町教育委員会 教育長 矢野 節夫（前任）

教育長 牧園 照和（現任）

教育課長 吉村 啓助

庶 務 社会教育係長 谷口 優

社会教育係 岡崎みどり

調 査 担 当 社会教育係 河村裕一郎

調査作業員 濱近次男 上野花子 坂本ユキエ 山崎真喜江 伊藤美千代

（順不同）

なお、調査時においては、福岡教育事務所中間研志、同小池史哲、志摩町生活環境課洞龍二郎各氏に有益な指導・助言をいただいた。

また、人骨調査には九州歴史資料館橋口達也氏、九州大学医学部解剖学教室中橋孝博氏にご協力いただいた。

新町区長土井良英一氏をはじめ、地権者・地元の皆さまにも諸々のご協力をいただき、感謝の念にたえない。

2. 遺跡の位置と環境

新町遺跡は糸島半島西側の内湾となる引津湾に面する砂丘上に位置する。遺跡から海岸までは約 180 m ほど離れており、また、東側には糸島地方でもひときわ目をひく可也山がひかえている。

可也山西麓から流れる沖田川の周りには新町、御床を底辺とする三角形の平野が広がっており、この平野の微高地となる箇所に遺跡が点在している。

そのなかでも最も大規模に調査がなされているのが御床松原遺跡である。(註1)

土砂採取に伴い昭和57年に発掘調査されたこの遺跡は少数ながら弥生早・前期を含む、弥生中期から古墳前期の住居跡を中心とした集落遺跡である。出土遺物にも石錘等の魚撈具が大量に含まれており、引津湾を中心に活動していた集団の存在がうかがえる。

この遺跡は貨泉(註2)・鉄戈(註3)の出土で大正時代より知られており、この地における大規模な遺跡の存在は予測されていた。

隣接する形になる新町遺跡も以前より畑の上面に支石墓の蓋石が露出しており、墳墓の存在が予測されていたが、昭和61年の調査(註4)を皮切りに昭和62年(註5)、平成元年(註6)、と次々に時代を別にする墓地の存在が確認された。

玄海灘に面した唐津市から糸島、福岡市と稲作開始期の遺跡が集中するこの地域に存在する弥生時代の墳墓群は数多いが、新町遺跡のように狭い地域より墓の変遷が把握できるようなまとまった遺構を擁する遺跡は他に類をみない。

また、御床松原遺跡の調査中に縄文時代の遺物も検出されており(註7)、付近に同時代の遺跡が存在することも考えられる。

(註1) 志摩町教育委員会「御床松原遺跡」志摩町文化財調査報告書第3集 1983

(註2) 中山平次郎「九州北部に於ける先史 原史両時代中間期間の遺物に就いて(一)」考古学雑誌 7-10 1917

(註3) 中山平次郎「前掲書」 1917

(註4) 志摩町教育委員会「新町遺跡」志摩町文化財調査報告書第7集 1987

(註5) 志摩町教育委員会「新町遺跡Ⅱ」志摩町文化財調査報告書第8集 1988

(註6) 志摩町教育委員会「新町遺跡Ⅲ」志摩町文化財調査報告書第11集 1990

(註7) 志摩町教育委員会「御床松原遺跡」志摩町文化財調査報告書第3集 1983



- | | | | |
|------------|-----------|------------|-----------|
| 1. 新町遺跡 | 2. 御床松原遺跡 | 3. 開前方後円墳 | 4. 後口古墳 |
| 5. 権現古墳 | 6. 泊大塚古墳 | 7. 御道具山古墳 | 8. 志登支石墓群 |
| 9. 志登神社支石墓 | 10. 瓜生貝塚 | 11. 桑原飛櫓貝塚 | 12. 谷古墳群 |
| 13. 吹切遺跡 | 14. 太牟田遺跡 | 15. 熊添遺跡 | 16. 天神山貝塚 |
| 17. 四反田古墳群 | 18. 稻葉古墳群 | 19. 八熊遺跡 | 20. 釜塚古墳 |
| 21. 銚子塚古墳 | | | |

II. 調査の内容

1. はじめに

調査地は以前発掘調査を行った字ギ丁原の北東約 150mの平地で、現状は畑である。

調査にあたっては隣接する畑等が耕作を行っている場所もあったので休耕地をえらんでトレンチ調査とした。

地元地権者との折衝の結果、調査を行える土地が限られてしまい、設定した個々のトレンチが距離的に離れてしまった感がある。

トレンチ設定の際、基準は前調査の基準線を踏襲し、それを基に10mの方眼を組んでトレンチを設置した。トレンチは東南優位でⅣ-01トレンチ、Ⅳ-02トレンチ、Ⅳ-03トレンチと番号をふった。

全体の目的としては、ギ丁原に位置する弥生時代墳墓に時期的に対応する生活遺構の検出と御床松原遺跡で確認している集落跡の西限もしくは、広がり把握である。

Ⅳ-01トレンチ・Ⅳ-02トレンチがこの目的で設定している。

また、弥生墳墓群の位置する砂丘の北側にわずかな広がりをもせる低湿地があるが、その低湿地と今回の調査地との関連性を見出すべくⅣ-03トレンチを設置した。

調査の結果、Ⅳ-01・Ⅳ-02トレンチからは主に縄文土器とそれの関連遺構が、特にⅣ-02トレンチからは平安時代の土壙墓とその下層から縄文時代後期初頭の貝塚が検出された。

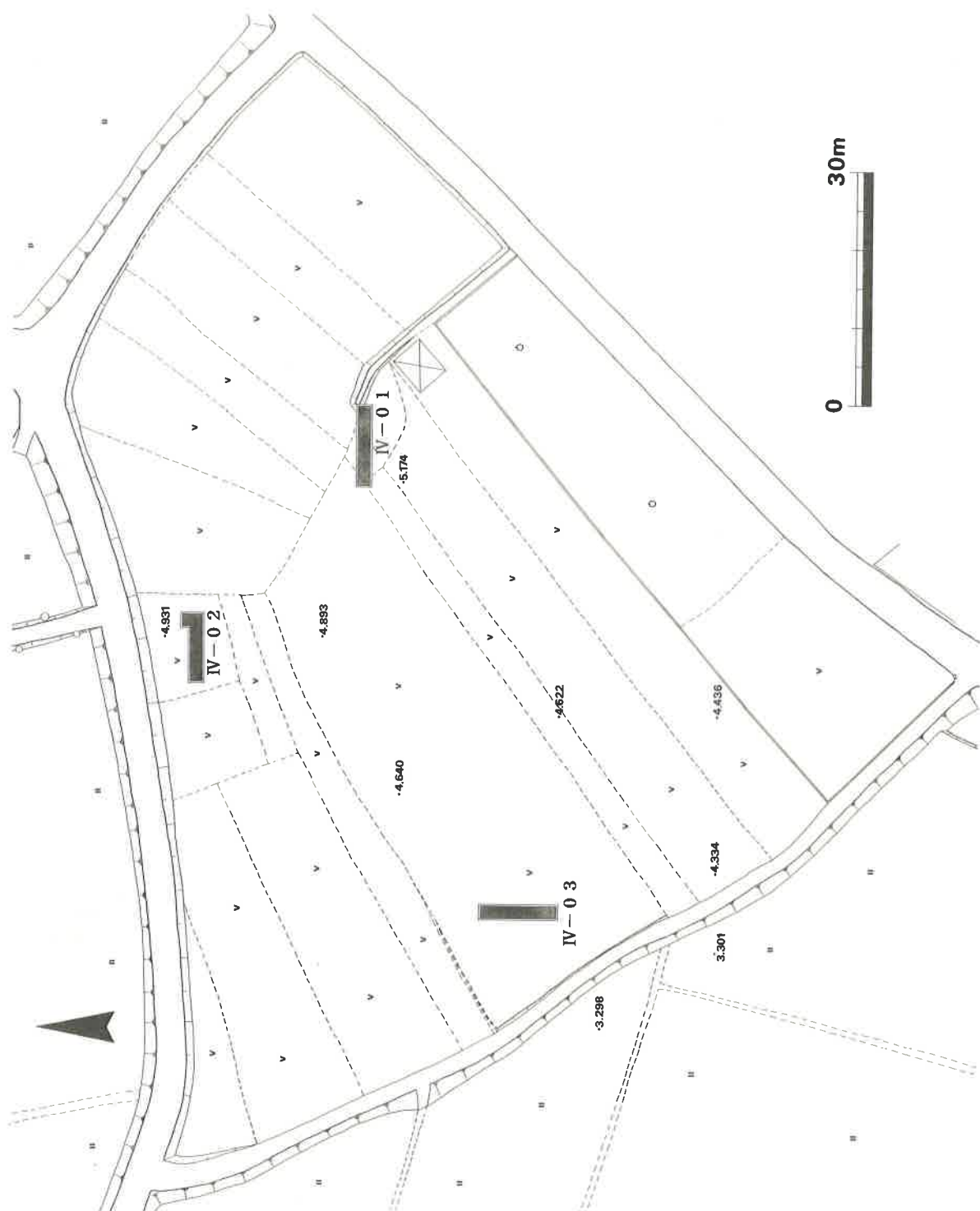
Ⅳ-03トレンチからは顕著な遺構は検出されず、むしろ砂丘上から低湿地に流れた堆積層を掘ったようだった。

本来なら番号順に経過を報告するべきなのだが、説明の便宜上、Ⅳ-03トレンチより順次報告していく。



第2図 遺跡周辺地形図(縮尺1/5,000)

1. 新町遺跡 (黒-第1次・第2次・第3次・赤-第4次)
2. 御床松原遺跡
3. 鉄戈出土推定地 (昭和38年)
4. 貨泉出土推定地 (大正6年)



第3図 遺跡地形図 (縮尺1/800)

2. IV-03トレンチの調査

IV-03トレンチは長軸をほぼ南北にとって設定した。これは砂丘から低湿地にむけて落ち込む肩に平行になっている。本来なら落ちこみに対して直角に設定して旧地形のつながりを明確にするべきなのだが、肩に添って農作業用道路があるのと、地下水路が付近に埋められているのでこの形になった。

トレンチの基本的な層序は上から耕作土・暗黄褐色砂・暗褐色砂土・暗灰褐色砂土・淡黄白色砂の順となる。耕作土・暗黄褐色砂・暗褐色砂土からは多量の土器が出土したが遺構面はなく、耕作時の攪乱による混入と思われる。この3層から出土した遺物は弥生中期から近世までと幅広い。

次の暗褐色砂土の面で土坑等の遺構が検出された。最も大きな土坑は南東隅にかかっていたが、これをはじめ全ての土坑を完掘しても時期、性格を決定する遺物は出土しなかった。

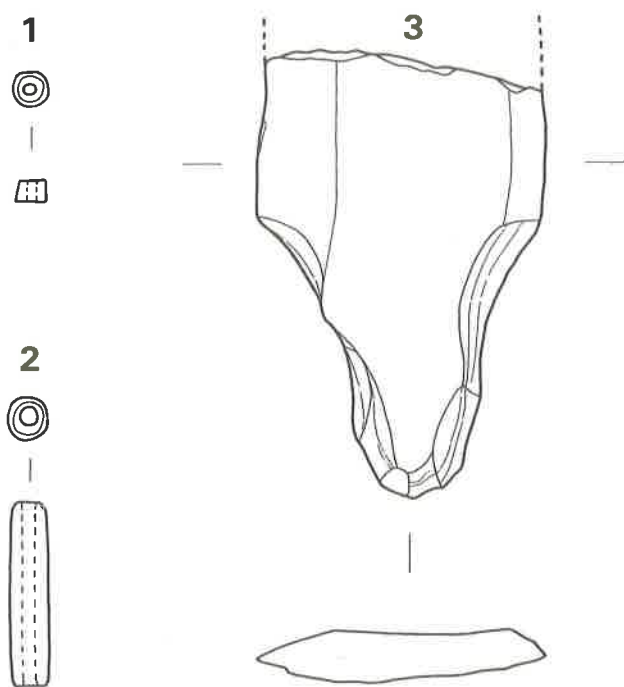
土坑は全部で14基検出されたが、全て不整形で大きさも0.3mから0.5mとばらつきがある。配置にも計画性は認められなかった。この遺構面のほぼ中央部から磨製石剣の破片（第4図の3）が出土している。

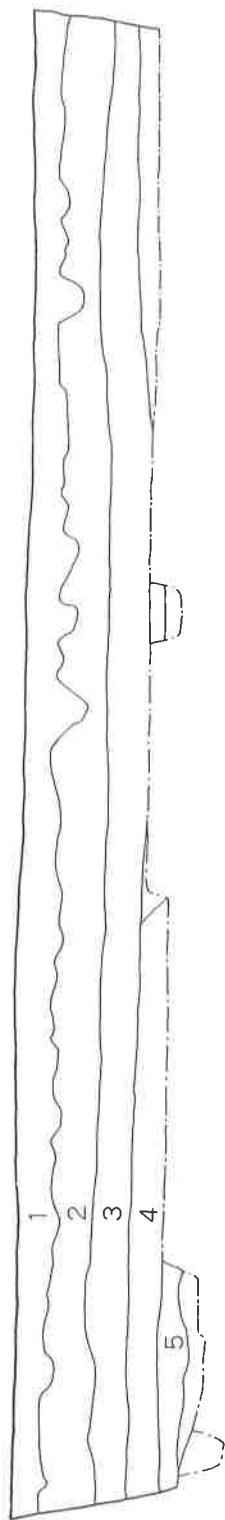
トレンチ中央北寄りに東西にはしる溝状遺構が1条検出されたが、掘ってみると下層の淡黄白色砂がせり出たものとわかった。この遺構面で地表より約1m下がっており、上層に露出していた淡黄白色砂を掘り下げてみたが、湧水点にあたり調査に支障がでたのでここで止めるにいった。しかし、南西隅の下層に土坑の一部がかかっており、ここから管玉と小玉（第4

図の1・2）がそれぞれ1点ずつ出土した。

全体的にみて砂の層が堆積しており、層の間にごく薄く粘質土が存在するので、微高地から低湿地に向かって土砂が堆積したと思われる。

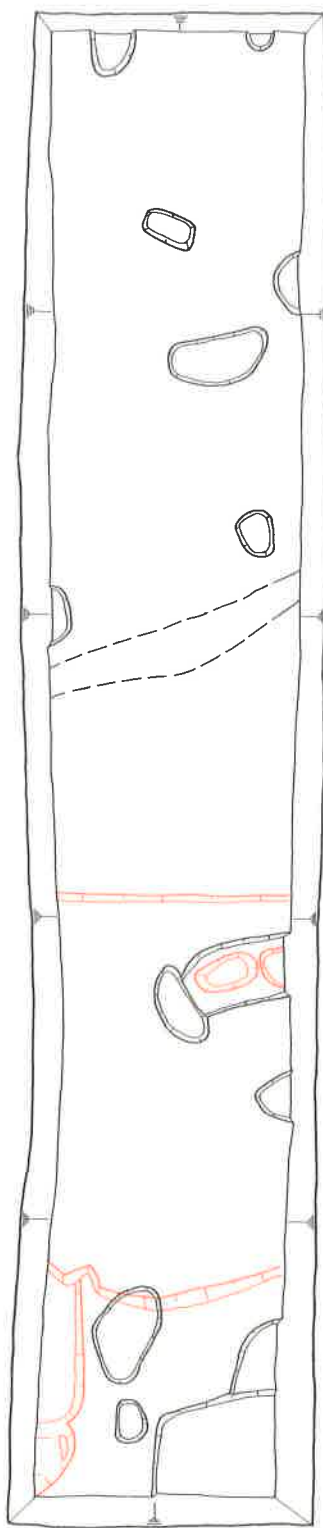
淡黄白色砂の下の湧水点は海拔3.1mの箇所にあり、現状の低湿地よりわずかに高い所となるので、この地形が原地形に近いものであるのなら低湿地に水田遺構が存在する可能性は高い。





H.4.00

- 1. 耕作土
- 2. 暗黄褐色砂
- 3. 暗褐色砂土
- 4. 暗灰褐色砂土
- 5. 淡黄白色砂



第5図 IV-03トレンチ実測図 (縮尺1/50)

3. IV-01トレンチの調査

IV-01トレンチは調査地の東南隅に位置している。設定したトレンチの規模は長辺10m・短辺2mである。長軸はほぼ東西に添っている。

このトレンチの付近が御床松原遺跡に接近しており、調査前は御床松原遺跡の続きである住居跡の検出が期待された。

しかし結果から述べると、住居跡は検出できず、弥生時代の遺構は土坑が1基のみ確認できただけであった。

ところが下層まで掘り下げると縄文時代の遺構面が検出でき、土坑等も確認されるにいった。

層序は耕作土の下に乳白色の砂層がひろがっており、その面で弥生時代中期の土坑が1基構築されている。

土坑はトレンチ南西隅に作られていて、下の方がすぼんでいて埋土より弥生時代中期と思われる土器片が出土した。

乳白色砂面での遺構はこの土坑のみである。

トレンチ南東隅には現代のごみ穴が掘られており、石や瓦・土器の破片などが投げ入れられていた。この穴は耕作土のみを掘っており底は乳白色砂面である。

乳白色砂を除去すると、淡茶褐色砂へと変わり、この層から縄文時代の遺構が検出された。

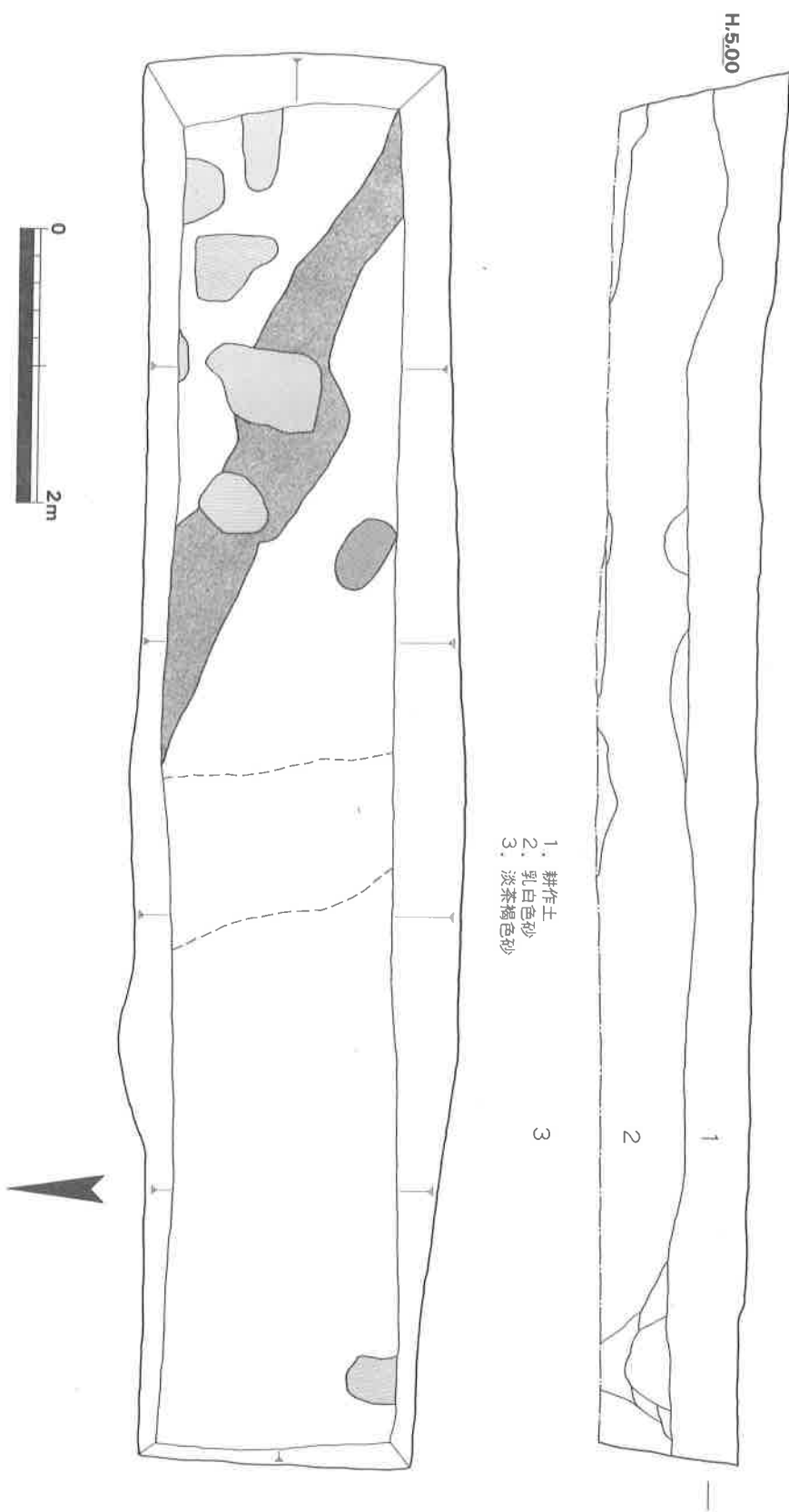
トレンチ南半に遺構は集中しており、不整形土坑が7基、それらに切られる形で南西から北東にはしる溝状の遺構が検出された。不整形土坑のうち中央南側の土坑は埋土に炭化物が若干混入していた。

遺物は擦消縄文土器の破片が数点と貝殻条痕のある土器の破片が数点、すべて不整形土坑もしくは溝状の遺構の埋土より出土した。

また、トレンチ中央で南北にはしる溝状の遺構も検出した。しかしこの遺構は淡茶褐色砂と埋土の区別がつきにくく、明確な溝とは言い難い。この埋土よりも擦消縄文土器の破片が数点出土している。

それぞれの配置をみても雑然としており、遺構の内容を把握するにはいたらなかった。

出土した縄文土器よりこれらの遺構がつくられた時期は縄文時代後期初頭と思われる。



第6図 IV-01トレンチ実測図 (縮尺1/50)

4. IV-02トレンチの調査

IV-02トレンチは調査地の北端に位置し、砂丘が再び傾斜する部分でもある。この北側は低地になっており、丘陵部の麓につながっていく。

このトレンチは長軸を東西に9mとり、南北は2mである。東側は拡張したため最終的なトレンチの形状はL字状になった。

層序は耕作土・暗灰茶色砂質土・暗灰褐色砂となる。暗灰茶色砂質土と暗灰褐色砂は包含層で、弥生土器に混じって土師器や黒色土器等も出土している。

包含層の直下より遺構面になり暗黄灰色砂となる。

顕著なのが配石遺構で長0.4mほどの花崗岩を積み上げて構築している。特にトレンチ西側中央の遺構は掘形を設け、石の積み方も他の遺構より入念である。

また、方形土坑も3基確認されたが、完掘しても弥生土器の破片が出土するだけであった。

この遺構面は大量の縄文土器が出土している。大半が貝殻条痕を施したものと擦消縄文土器であり、配石遺構もこの時期のものと思われる。

この暗黄灰色砂は西側が高く東側になるにつれて低くなっている。トレンチ北東側は急に下がっており暗灰褐色土で埋まっている。

この落ちこみがはじまる個所より南西側に円状土坑が2基確認されたが非常に浅く、その内容はわからないがやはり縄文土器が埋まっているので配石遺構と時期を同じにするものと思われる。

急に低くなる部分を調査中、トレンチ壁面に骨が露出していたので、急遽北側1mを拡張した。

その結果、その部分は土壙墓であり、壁面で確認された骨は人のものであることがわかった。

人骨は暗灰褐色土に掘り込まれた0.9m×0.65mの楕円形を呈する土壙墓に埋葬されている。

頭位はほぼ北にとっており、ひざをおって腰を曲げられており、屈葬の形態をとる。しかし右手は頭の後にもってきており一見奇妙な格好に見える。左手は左足の下になっており、一部欠損しているものの状態は驚くほど良好である。

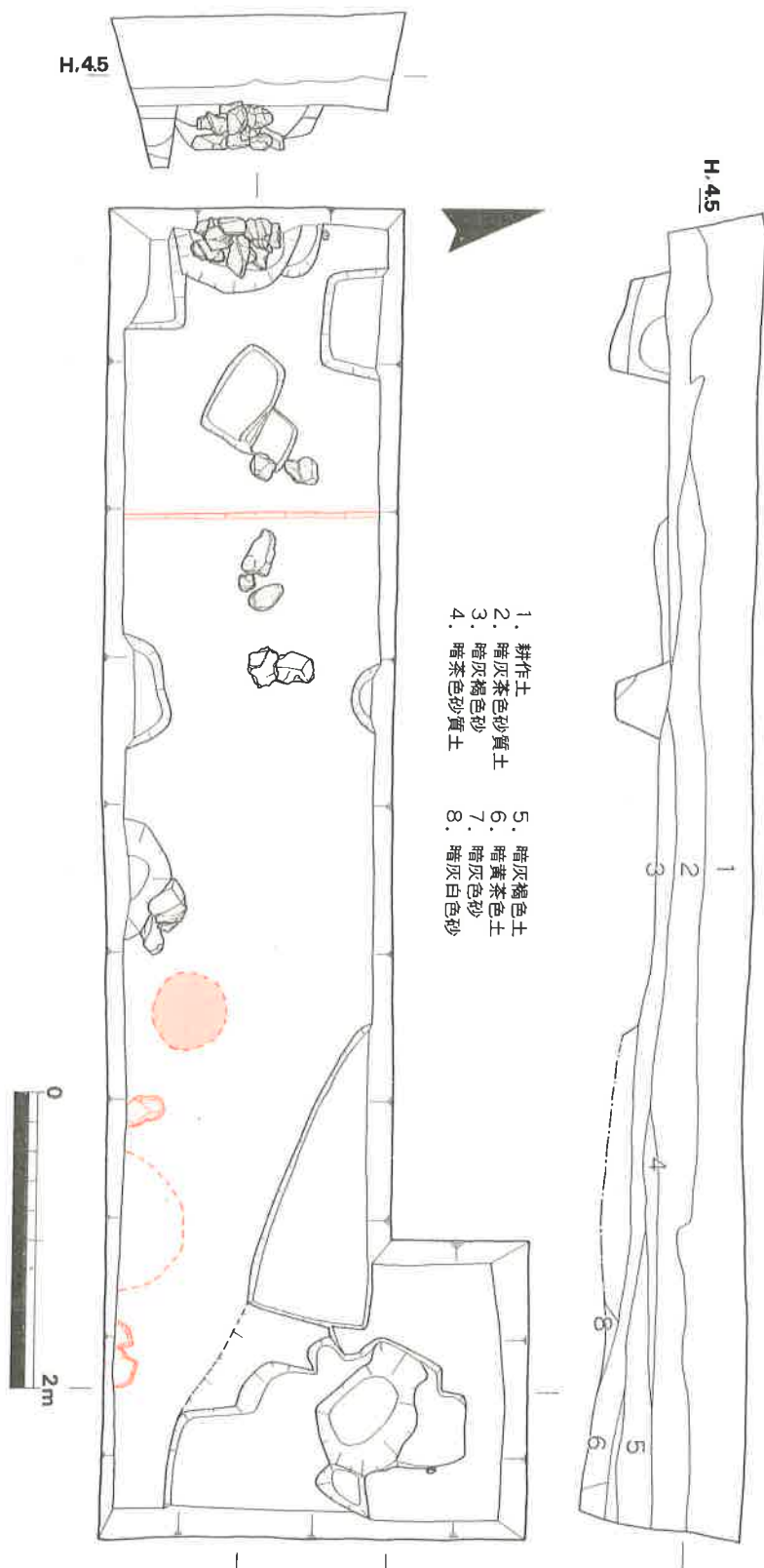
頭骸骨もほぼ完存しているが歯は見当らなかった。

副葬品も2点出土し、2つとも黒色土器の椀で人骨の右肩にのせるような形で共献している。

下になっている黒色土器椀は半分欠損しているが、右肩にのっている椀は割れてはいるもののほぼ完形である。

また、この土壙墓の掘形外の南西から別個体の人骨の骨盤の一部が検出された。

周囲には土壙墓の掘形は認められなかったので付近に同時代の土壙墓群が存在するものと思われる。

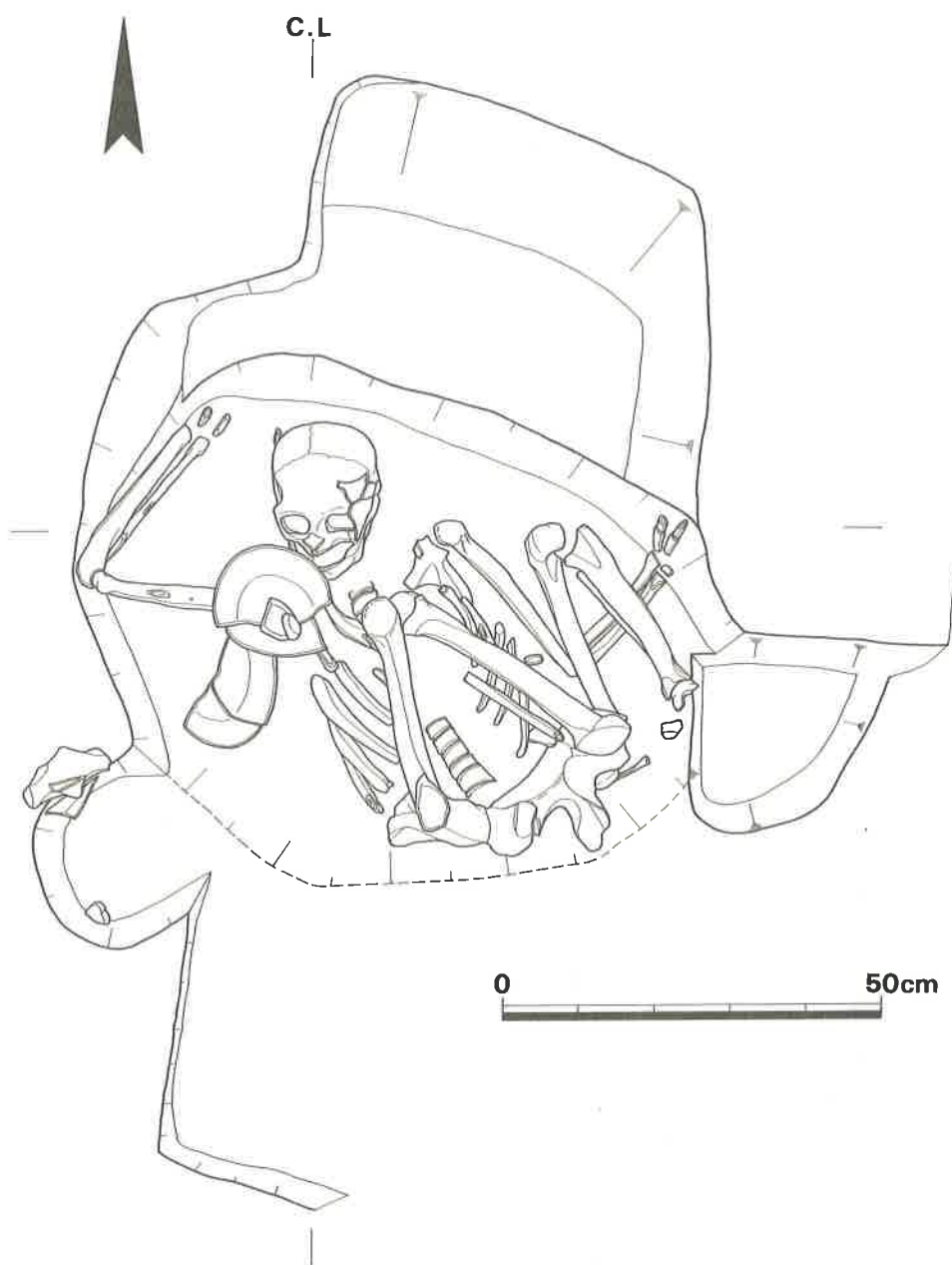


第7図 IV-02トレンチ実測図 (縮尺1/50)

人骨を取り上げた土壌墓の底は貝層の上面となっており、下層は縄文時代の貝塚がひろがっていることが判明した。ごく少量であるがトレンチ西側からも貝が出土していたのでかなり広範囲にわたって貝塚が存在する可能性が高い。

貝塚の範囲を確認する必要性が生じたが今回は貝層の上面を確認するにとどめた。

貝層上面から出土した土器はやはり貝殻条痕を施した土器と擦消縄文土器であるので、Ⅳ-01トレンチ同様縄文時代後期初頭とみてもよいと思われる。



第8図 Ⅳ-02トレンチ出土人骨実測図（縮尺1/10）

III. お わ り に

3カ所にトレンチを設定して行なった今回の調査の目的は、ギ丁原に所在する弥生早期の支石墓群を含む墓域に対する住居跡等の生活遺構の検出にあった。結果からみれば当初の目的を達成できたとは言い難い。

しかし、Ⅳ-01トレンチ、Ⅳ-02トレンチにおいて確認できた縄文後期初頭の土坑群と貝塚の存在は思いもかけない成果をもたらしたと言える。また、Ⅳ-02トレンチで検出された土壙墓から出土した人骨も貴重な資料である。

ギ丁原に所在する弥生時代の遺跡と比較して、様相を異にする遺構が広がる可能性を今回の調査対象地は示唆している。

Ⅳ-01トレンチは今回のトレンチの中で最も御床松原遺跡に近接している調査区である。それにもかかわらず弥生時代の遺構は土坑が1基のみで、注目すべき遺構は下層から検出された縄文時代のそれである。狭い区域内の調査であったため、遺構を確認するのみで調査を止めたが、出土した土器により縄文後期初頭の遺構と判明した。

同じくⅣ-02トレンチからも縄文後期初頭の貝塚等を検出したが、ひとつの砂丘上に同時代の遺跡が広がる可能性は高い。

Ⅳ-02トレンチ出土の人骨であるが、副葬されていた2点の黒色土器碗を見るかぎり、10世紀から11世紀のものと思われる。このことより、中世の土壙墓群もまた、調査地付近に存在するものと予測される。

縄文後期初頭の貝塚だが、実際はこの人骨除去後の土壙墓底部でしか確認していない。しかし、約30m東南に離れたⅣ-01トレンチからも同時代の遺構を検出したことによって、調査地東側に貝塚および縄文時代の土壙墓群、さらに住居跡が存在する可能性がでてきた。

Ⅳ-03トレンチで縄文時代の遺構が検出されなかったのは、時期差による地形の変動がその原因と思われる。

第1次調査から第3次調査までの成果である弥生早期から古墳時代前期にかけての墳墓群に加えて、今回の中世の人骨の出土は、形質人類学的見地からの研究材料が充実してきたことを物語る。一地域から出土する時代差がある人骨資料として、その埋葬形態も含め、非常に貴重な資料となるのは間違いない。

今後は、各時代の生活圏の確認と生産基盤となる水田跡等の確認が課題となるであろう。

周辺地域の今後の調査の進展により、新町遺跡の全貌が明確になることに期待したい。

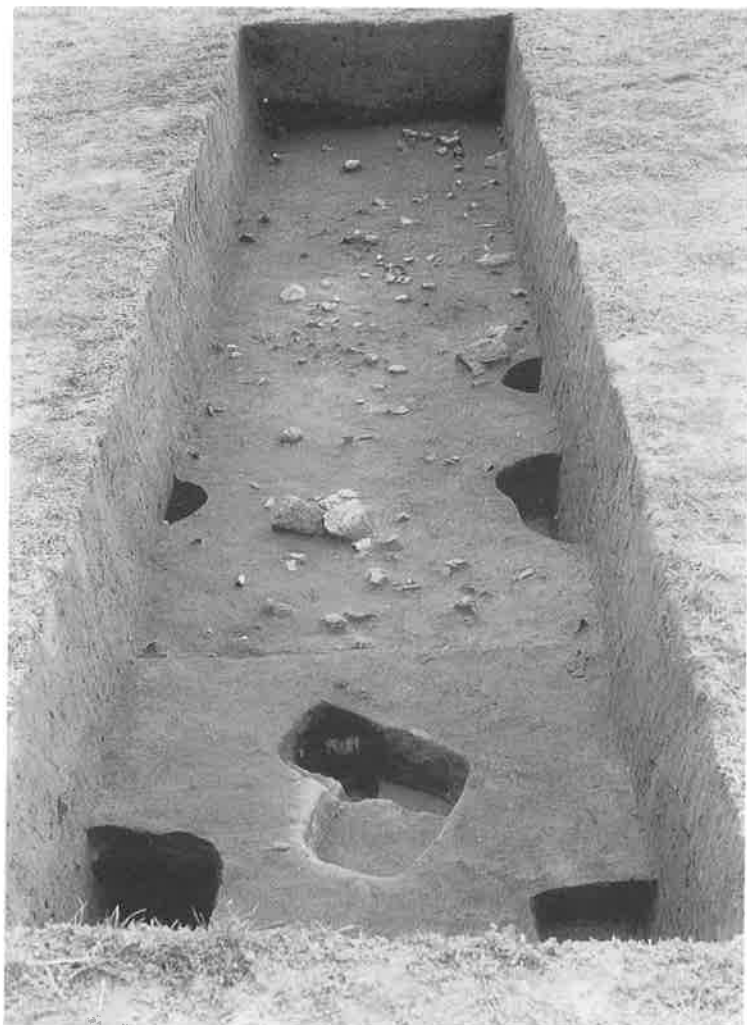
版 圖



a 新町遺跡空撮（西から）



b IV-01トレンチ遺構検出状況



a IV-02トレンチ遺構
検出状況（西から）



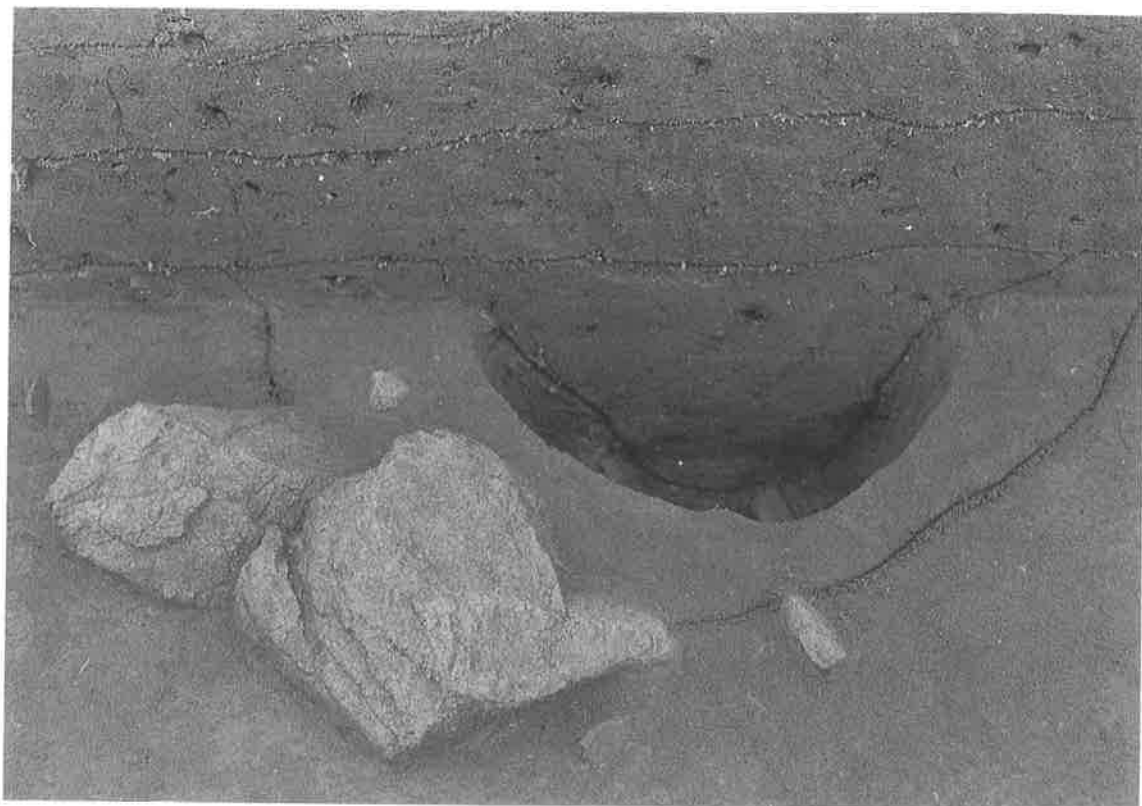
b IV-02トレンチ遺構検出状況（トレンチ東端）



a IV-02トレンチ1号人骨出土状況



b 1号人骨頭部状況



a VI-02トレンチ南側石組遺構検出状況（北から）



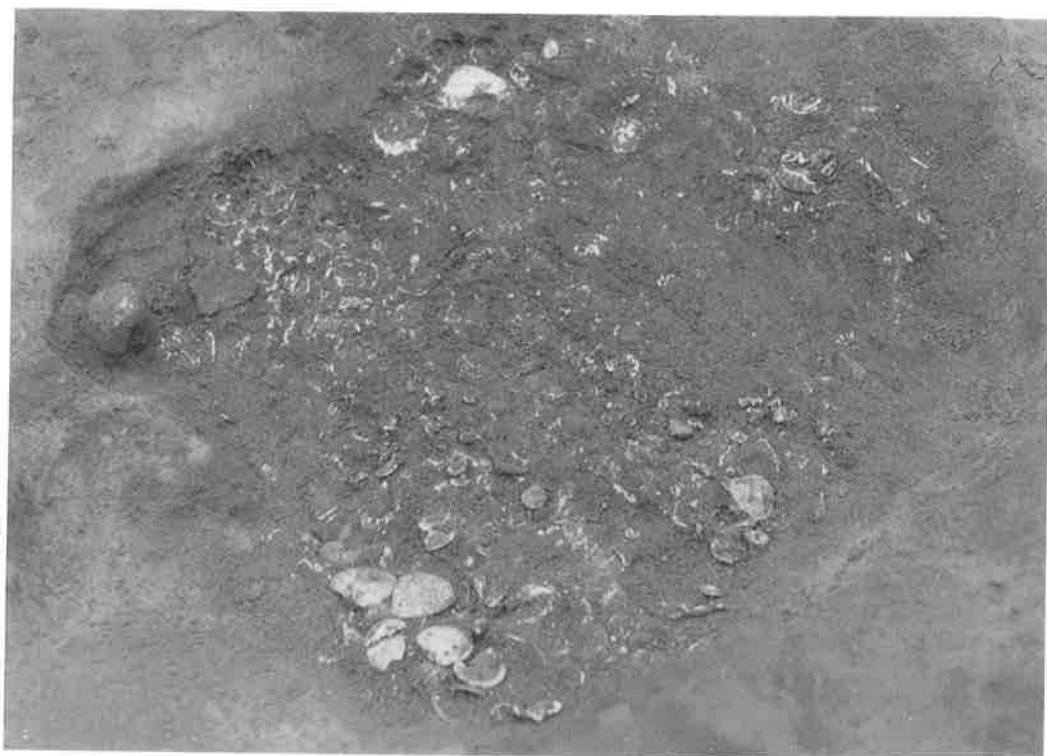
b IV-02トレンチ西側石組遺構検出状況（東から）



a IV-02トレンチ西側石組遺構



b IV-02トレンチ
下層遺構検出状況



a 1号人骨除去後状況



b IV-03トレンチ
遺構検出状況

新 町 遺 跡

Ⅳ

志摩町文化財報告書 第14集

平成3年3月31日

発 行 志 摩 町 教 育 委 員 会

福岡県糸島郡志摩町大字初30番地

印 刷 有限会社 松 古 堂 印 刷

福岡市西区周船寺1丁目7番64号

新町遺跡 IV

志摩町文化財調査報告書第14集

1991

志摩町教育委員会